

在宅医療・介護連携推進事業 取り組み状況について



桑名市在宅医療・介護連携支援センター

取組事項

- R5 在宅医療・介護連携に関する意識調査
- 人生会議(ACP:アドバンス・ケア・プランニング)普及啓発
- 救急医療の適正化(予防救急の普及)

R5 在宅医療・介護連携に関する意識調査

Webによる調査回答

調査対象		H28意識調査			R5意識調査		
		調査数	回答数	回答率	調査数	回答数	回答率
全体		400	234	58.5%	355	231	65.1%
医療関係	病院(病院管理者)	11	6	54.5%	8	3	37.5%
	病院(地域連携室)	11	8	72.7%	8	6	75.0%
	診療所	79	37	46.8%	86	54	62.8%
	歯科	58	32	55.2%	67	40	59.7%
	薬局	73	45	61.6%	79	59	74.7%
	計	232	128	55.2%	248	162	65.3%
介護関係	居宅介護支援	39	26	66.7%	34	29	85.3%
	訪問看護	7	6	85.7%	19	11	57.9%
	訪問リハビリテーション	4	4	100.0%	—	—	—
	訪問介護	27	12	44.4%	29	17	58.6%
	小規模多機能型居宅介護	6	5	83.3%	10	6	60.0%
	定期巡回・随時対応型訪問介護看護	1	1	100.0%	—	—	—
	短期入所生活介護・短期入所療養介護	7	5	71.4%	15	6	40.0%
	通所介護	70	42	60.0%	—	—	—
	通所リハビリ	7	5	71.4%	—	—	—
計	168	106	63.1%	107	69	64.4%	

質問：在宅医療に関心がありますか？

そう思う・少しそう思う

(%)

	平成28年	令和5年	
病院	100.0	100.0	
診療所	64.8	57.3	
歯科	65.7	70.0	
薬局	88.6	89.7	

診療所

「そう思う」「少しそう思う」と回答した割合

(%)

	平成28年	令和5年	
患者の満足度は高い	78.4	98.1	↑
家族の満足度は高い	78.4	94.4	↑
家族の介護負担が大きい	100.0	96.2	↓
在宅医療を望む患者は増えている	62.1	85.1	↑
医師の時間的拘束の負担が大きい	94.6	92.5	↓
在宅医療は複数の医師で分担する必要がある	91.9	88.8	↓
今後、在宅医療は推進すべき	73.0	88.8	↑

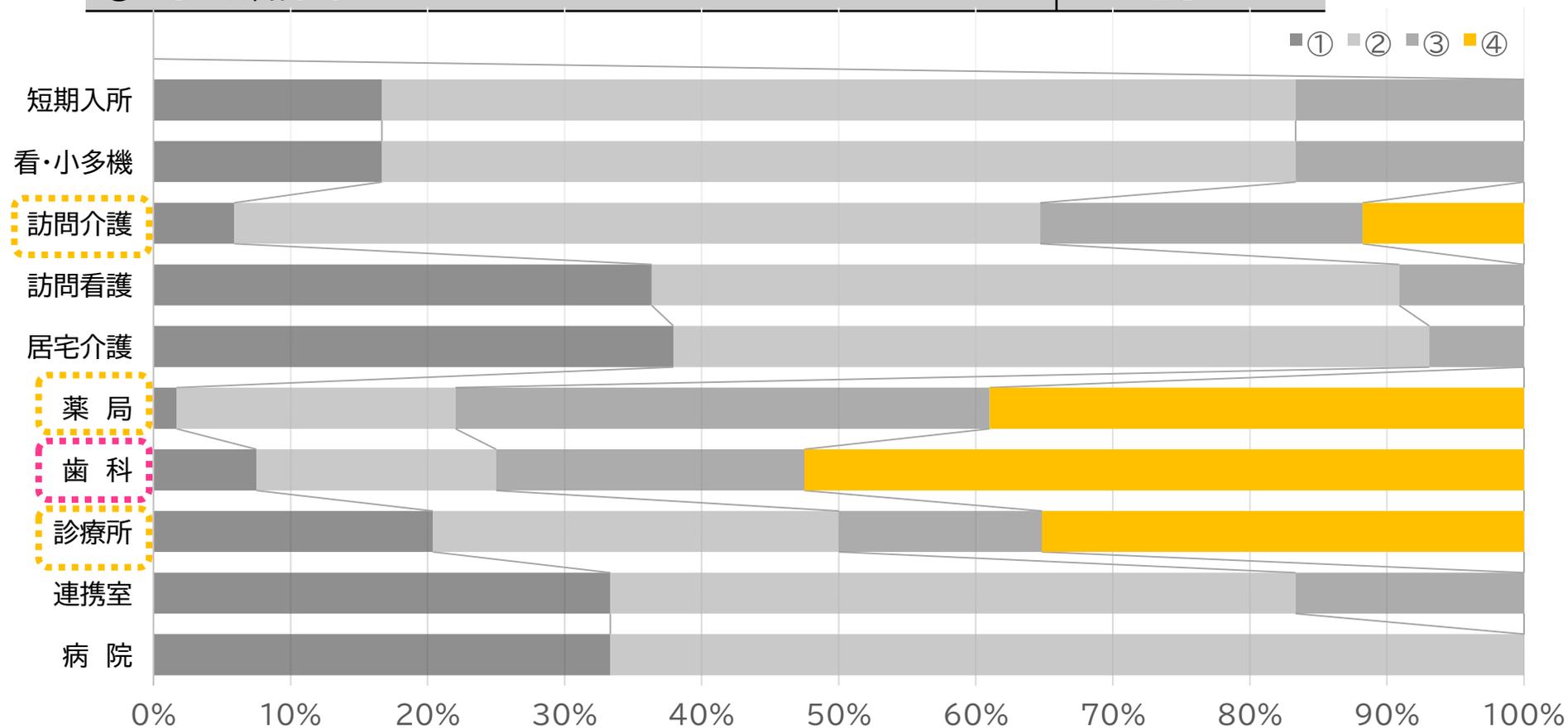
質問：桑名市で在宅医療が難しい理由(複数回答)

	全体	(%)
家族の理解	42.0	0.0(病院)～83.3(短期入所)
本人の意志	25.2	0.0(病院、連携室)～50.0(短期入所)
経済的問題	35.5	0.0(病院)～66.7(看・小多機)
環境(家屋・場所の問題)	33.8	0.0(病院)～66.7(短期入所)
在宅医療を行う医師の不足	52.8	23.5(訪問介護)～83.3(連携室)
訪問看護の不足	22.9	9.1(訪問看護)～47.1(訪問介護)
24時間対応困難(訪問看護)	44.6	27.5(歯科)～66.7(病院、看・小多機)
訪問介護の不足	28.6	16.7(連携室、看・小多機)～58.8(訪問介護)
24時間対応困難(訪問介護)	42.4	16.7(看・小多機)～70.6(訪問介護)
ショートステイの不足	13.4	0.0(病院)～50.0(短期入所)
介護力不足	28.6	0.0(病院)～83.3(連携室・短期入所)

質問: ACP(アドバンス・ケア・プランニング)について

全体 (%)

①ACPを知っており、患者/利用者実践している	15.6
②ACPを知っているが実践はできていない	34.6
③ACPという名前は聞いたことがある	21.6
④ACPを知らない	28.1



取組事項

- R5 在宅医療・介護連携に関する意識調査
- 人生会議(ACP:アドバンス・ケア・プランニング)普及啓発
- 救急医療の適正化(予防救急の普及)

医療介護専門職向け

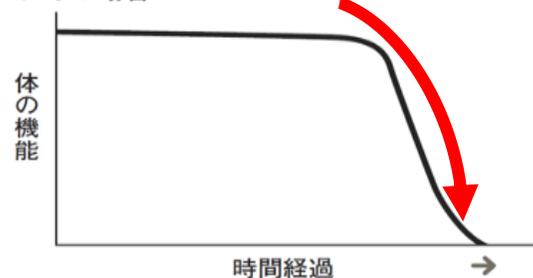
開催	共催先	テーマ	人数
R5.8	認知症NW連携部会	「なぜか食べない認知症の人」～食行動のトラブル～ 東員病院・認知症疾患医療センター 総合診療科 洪 英在 医師	91
R5.11	桑員歯科医師会	「最期まで支える」 ～高齢期における摂食嚥下機能の特徴と食支援の在り方～ 愛知学院大学 健康科学部健康科学科 牧野 日和 准教授	71
R5.12	-	「継続的なACPの実践のために」 聖隷三方原病院 緩和支援診療科 部長 森 雅紀 医師	78
R6.8	もりえい病院	「自分らしく生き切るために」～患者さんの取材を通じて学んだこと～ 元中日新聞編集委員 地域共生ネットワーク東海共同代表 安藤 明夫 氏	68
R6.12	-	「医療者として、家族として」 山梨市立牧丘病院 古谷 聡 医師	58

ACP普及啓発(市民向け) 「今のうちから人生会議」

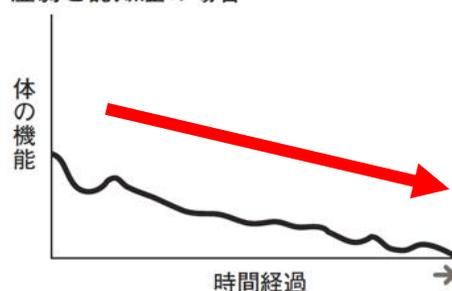
出典:令和6年度桑名保健所年報	令和4年 桑名市死亡数	1,552名
1. 悪性新生物		402人
2. 老衰		227人
3. 心疾患(高血圧性を除く)		223人
4. 脳血管疾患		84人
5. 肺炎		72人
6. 不慮の事故		39人
7. 自殺		23人
8. 肝疾患		22人
9. 大動脈瘤及び解離		21人
10. 慢性閉塞性肺疾患		20人

病気などの種類によって、からだの機能の衰え方は異なります

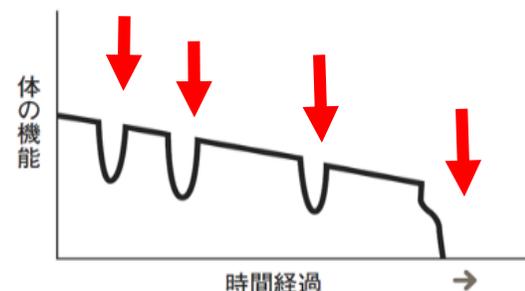
がんの場合



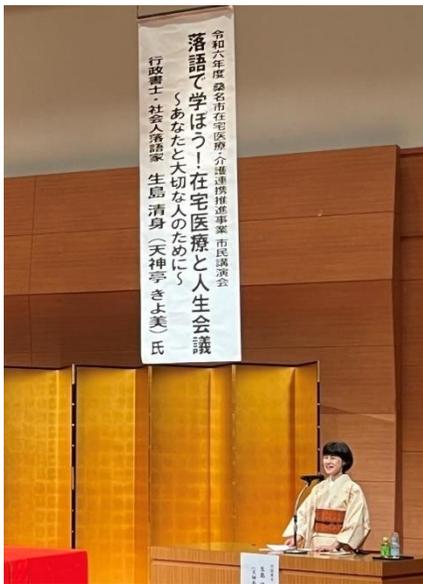
虚弱と認知症の場合



内臓疾患の場合



● 令和6年度 市民講演会



● 通いの場での啓発



● 大切な家族の“認知症かも？”に「備える」講演会



● 図書館を利用した啓発



● もしバナゲーム体験会



● 啓発ポスター

人生の最終段階どうしますか？
最期のときまで、自分らしく穏やかに生きるために…どのように過ごしたいか考えてみませんか。

「ある親子の会話を参考に自身のご自身のことについて考えてみましょう。」

● 桑名市ホームページ
 介護保険サービスに関するお問い合わせ先
 介護保険・介護予防などに関するお問い合わせ先

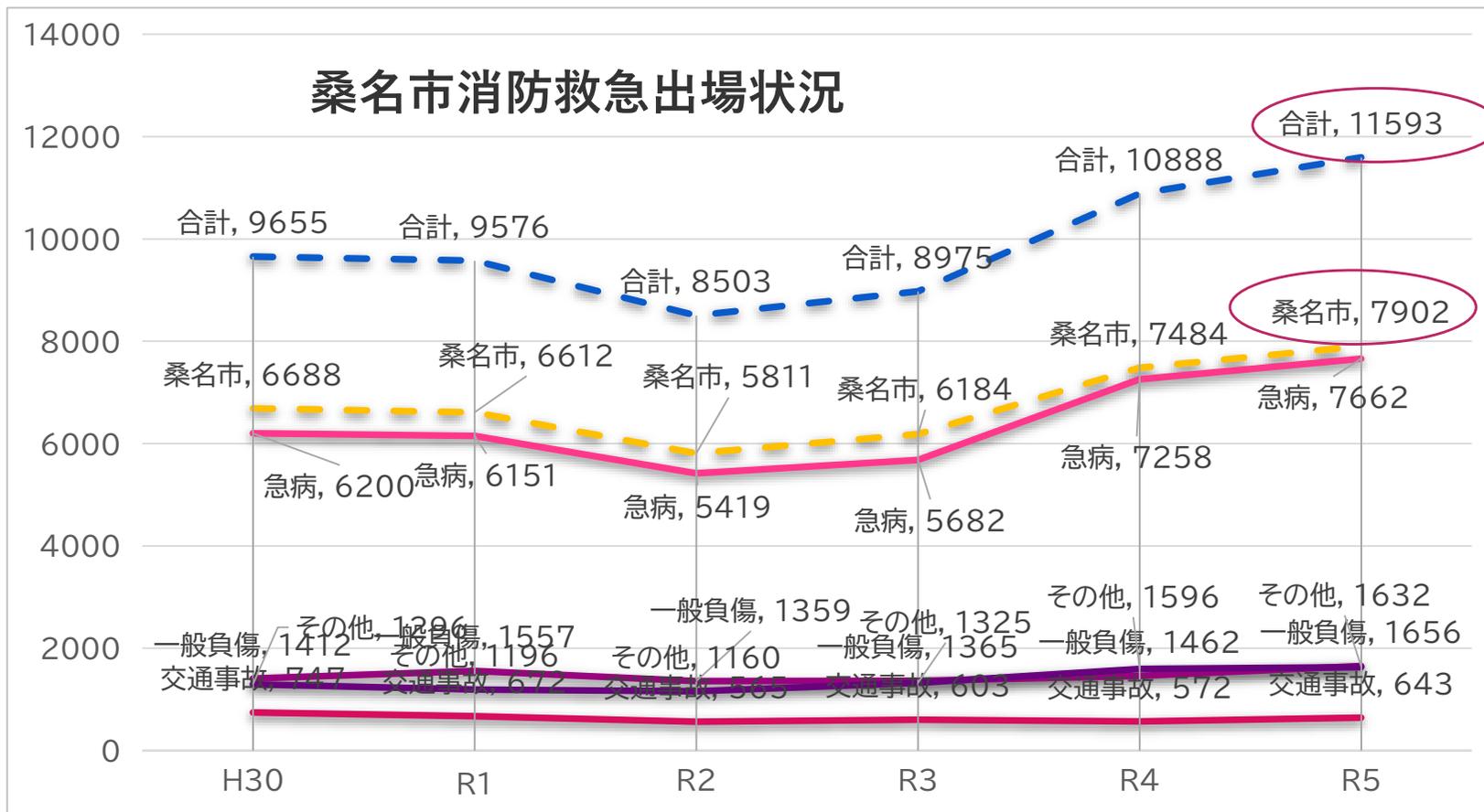
● お問合せ先
 在宅医療・ACP～人生会議～に関するお問い合わせ先
 桑名市役所 桑名市在宅医療・介護連携推進センター ☎ 0594-22-8200
 桑名市保健医療課 ☎ 0594-24-0562
 介護保険・介護予防などに関するお問い合わせ先 ☎ 0594-24-1186



- かかりつけ医をもちましょう
- 救急医療情報キットの紹介
- ACPリーフレット
- くわな在宅医療・介護マップ
- ポスター

取組事項

- R5 在宅医療・介護連携に関する意識調査
- 人生会議(ACP:アドバンス・ケア・プランニング)普及啓発
- 救急医療の適正化(予防救急の普及)



【桑名市消防】 桑名市・木曾岬町・いなべ市・東員町 人口 約21万人

- ・ 救急車の数は？ 9 台
- ・ 高齢者搬送 6 割
- ・ 軽症(入院を要しないもの) 5 割

【桑名市消防本部合同開催】 在宅医療と介護の多職種連携研修会

	開催時期	テーマ	内容
1	R3.3	医療介護関係者向け 「緊急時の情報連絡票利用の手引き」について	<ul style="list-style-type: none"> ・桑名地域の救急の現状と課題について ・緊急時の情報連絡票利用の手引きについて
2	R3.10	高齢者搬送にかかる課題と情報共有	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者搬送にかかる課題と情報共有 ・グループワーク
3	R4.3	自分が通報者になった時にどうする？	<ul style="list-style-type: none"> ・119番通報から現場到着までの流れについて ・グループワーク
4	R4.10	現場到着から病院まで	<ul style="list-style-type: none"> ・事業の経緯について ・現場到着から病院までの救急隊の活動内容 ・グループワーク
5	R5.3	どうする救急対応	<ul style="list-style-type: none"> ・救急対応場面のミニ演習 ・グループワーク ・総括(救急救命士/救急科師長)
6	R6.2	事故を防ごう！予防救急のススメ	<ul style="list-style-type: none"> ・予防救急とは何か ・グループワーク ・まとめ(救急救命士/理学療法士)

そのケガ 予防 できますよ

予防救急のススメ

ケガや事故は思わぬこと(車の加減)を予防するの秘訣は『オンラセ虫』

予防救急とは・・・

救急車で搬送されるような病気やケガの中には、日常のちょっとした心がけで防げるものがあります。救急車を呼ばなくてはならないような病気やケガを未然に防ぐために、口頭から気をつけるポイントを知り、意識して行動することを「予防救急」といいます。家の中のケガにつながりそうな部分を改善してケガを未然に防ぎましょう。

リビングを

- テレビや家電など倒れやすそうなものは耐震マットなどで固定する
- タンスや高さのある家具は突っ張り棒や転倒防止グッズなどを活用して固定する
- 敷物の下には滑り止めシートを敷く
- コードは脚を引っかかないように配置する
- 床にはできるだけ物を置かない
- ガラスには飛散防止フィルムを貼る

近年の地震でケガをした原因は、家具類の転倒・倒壊と移動によるものが30～50%もありました。

高齢者の転倒は骨折につながりやすく、介護が必要になる人也不少ありません。
※介護が必要になる原因 ①転倒 ②歩行 ③歩行・転倒

階段・ろうかなどを

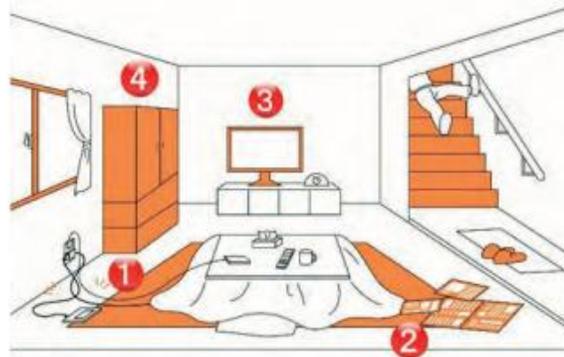
- 手すりをつける
- 段差や階段に蛍光テープや滑り止めをつける
- 滑り止めの付いた靴下、部屋履きをかかとのあるものにする
- 夜間は足元灯など灯りをつける

制作・監修：桑名在宅医療・介護連携支援センター、桑名市保健医療課、桑名市消防救助課

今すぐ始めよう！予防救急のススメ

予防救急とは・・・

救急車で搬送されるような病気やケガの中には、日常のちょっとした心がけで防げるものがあります。救急車を呼ばなくてはならないような病気やケガを未然に防ぐために、日頃から気をつけるポイントを知り、意識して行動することを「予防救急」といいます。家の中のケガにつながりそうな部分を改善してケガを未然に防ぎましょう。



家の中をチェックしてみましょう



- 1 コードは脚を引っかかないように配置する
- 2 床にはできるだけ物を置かない
- 3 テレビや家電など倒れやすそうなものは耐震マットなどで固定する
- 4 タンスや高さのある家具は突っ張り棒や転倒防止グッズなどを活用して固定する

株カインズと協働で予防救急に関するリーフレットを作成しました！

さまざまな場面に危険が潜んでいます。リーフレットには注意が必要なポイントが詳しく掲載されています。

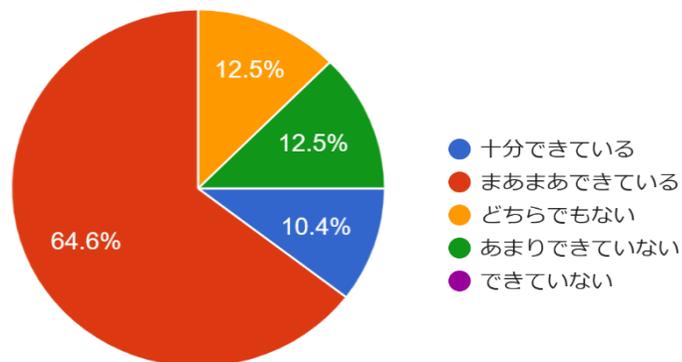
カインズ桑名店の店舗では、「予防救急グッズコーナー」も設けています。これを機会に家の中を整頓し、安全な環境を整えましょう。リーフレットはカインズ桑名店と保健医療課の窓口などで配布しています。

この取り組みは、桑名市と株カインズによる包括連携協定により、実施しています。



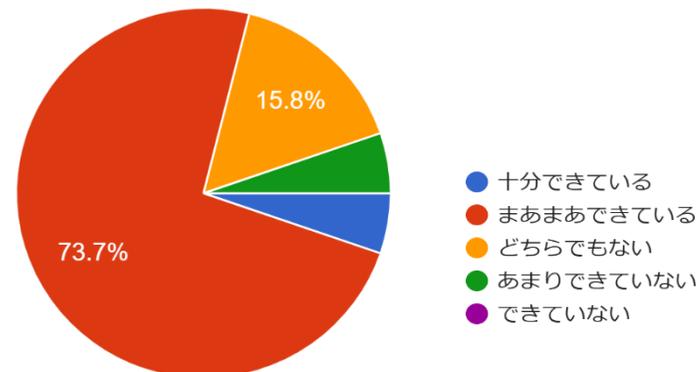
Q: 現在、多職種で連携がとることができていると感じていますか？

第29回



十分できている	10.4%
まあまあできている	64.6%
どちらでもない	12.5%
あまりできていない	12.5%
できていない	0%

第30回



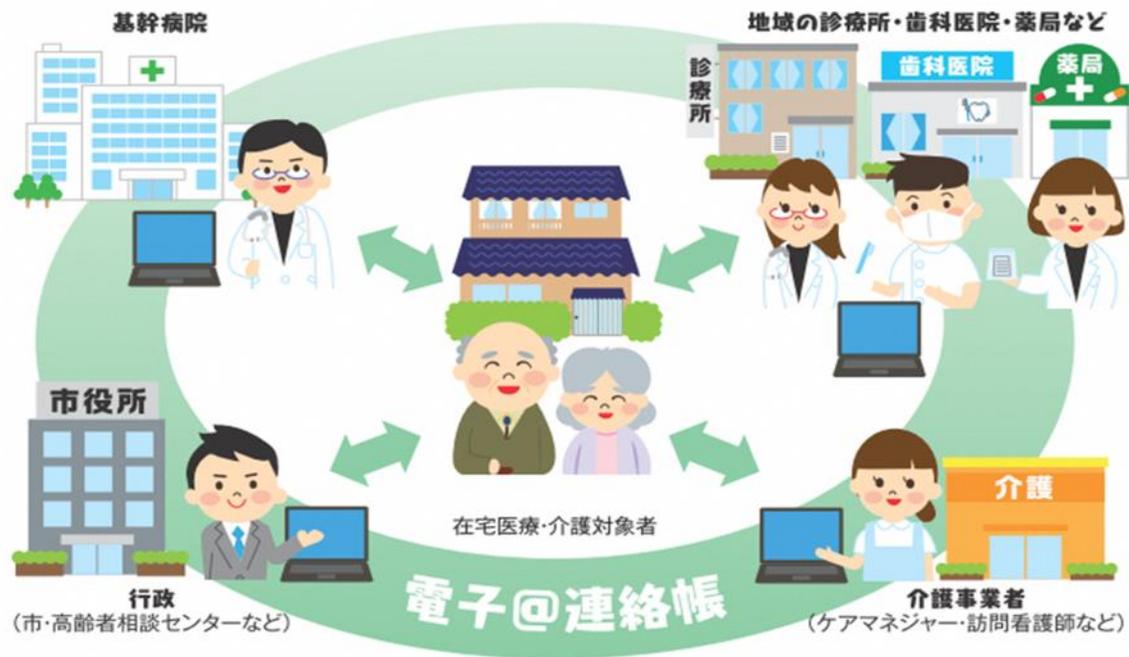
十分できている	5.3%
まあまあできている	73.7%
どちらでもない	15.8%
あまりできていない	5.3%
できていない	0%

Q: 地域において専門職の連携を進めていくためのご提案・ご意見をお聞かせください

・お互いの活動(仕事)を理解する(こういうことで困っている、こういう情報が欲しいなど)ことで、皆が同じ方向に向かって活動しやすくなる、又は議論することができると思うので多職種連携は今後も必要と感じます(消防職員)

・困っていることがあればなんでもいいから話すなどして欲しいです。他職種が絡むことで解決の糸口が見つかるかもだから。(薬剤師)

ICTを活用した情報連携



ご清聴ありがとうございました